

ALA-LC Japanese Romanization Table 2022

ALA-LC 日本語ローマ字変換表

日本語訳 鳥海恵司

2024

目次

1 序論：ローマ字変換表の範囲	1
2 ローマ字化の基本原則	1
2.1 ローマ字化の方法	1
2.2 優先する読みの情報源.....	2
2.3 優先する読み：例外	2
2.4 優先する読み：複雑なケース.....	3
2.5 長母音, 隣接母音, および例外.....	5
3 大文字使用法	7
3.1 個人名.....	7
3.2 敬称および呼称の用語.....	8
3.3 地名.....	8
3.4 団体および会議名	8
3.5 著作名	9
3.6 歴史的および文化的な出来事と時代	9
3.7 構造物, 等	9
3.8 宗教および宗派	10
3.9 固有名の派生語	10
4 日本語の句読点と活字記号	12
4.1 中点 “中黒 NAKAGURO”	12
4.2 句読点と活字記号に相当するローマ字表記.....	12
4.3 角括弧と丸括弧	13
4.4 ローマ字に相当するものがない活字記号.....	13
5 ローマ字表記で使用する発音符号およびその他の記号	13
5.1 マクロン (長音符号).....	14
5.2 アポストロフィ (省略符号).....	14
6 単語分割 (分かち書き)	14
6.1 単語とは何?	14

6.2	単語として書く場合.....	15
6.3	別々の単語として表記する場合.....	16
6.4	複合語からなる句(熟語).....	17
6.5	接頭辞.....	19
6.6	接尾辞.....	21
6.7	造語を含む借用語(外来語).....	22
6.8	その他の品詞.....	24
6.9	固有名の例外.....	26
6.10	地名.....	30
7	数字.....	33
7.1	典型的なケース.....	33
7.2	固有名.....	34
7.3	普通名詞.....	35
7.4	東アジアの数字の綴り形.....	35
7.5	東アジアの句読点付き数字.....	37
	ローマ字/仮名対照表.....	38
	参考文献.....	41

1 序論: ローマ字変換表の範囲

ローマ字表記は音訳の一種で、文字変換は、あるスクリプトで書かれたテキストを別のスクリプトに変換するプロセスである。この ALA-LC ローマ字変換表 (ALA-LC Romanization Table (RT)) のローマ字表記は、日本語のスクリプトを西ヨーロッパの言語で使用されるローマ字アルファベットへの変換方法を示している。

目録レコードのローマ字化されたテキストは、元の日本語の意味と読みを可能な限り反映することを目的としているが、ローマ字化のプロセスは正確ではない。日本語の原文は目録規則に基づいて書誌資料から直接記録されるが、ローマ字のテキストは RT (このドキュメント) のガイドラインを適用して作成される。RT は、目録レコードで使用されるローマ字化テキストの一貫性と均一性を保つためのローマ字化体系である。RT は発音ガイドではないが、ローマ字化プロセスでは発音が重要な考慮事項となる。日本語の文字の発音は時間、場所、文脈によって変化することがあるため、日本語文字とローマ字テキストの間には必ずしも明確な 1 対 1 の関係があるとは限らない。このような場合はテキスト内容を慎重に検討する必要がある。RT は均一性を目指しているが、カタログガーはローマ字化プロセスには多くの灰色の領域があることに注意する必要がある。疑わしい場合には、原則として異形からの参照を書誌および典拠レコードに追加する。

2 ローマ字化の基本原則

2.1 ローマ字化の方法

図書館目録でのローマ字化には、日本語テキストをローマ字アルファベットに変換することと、単語を分割することの 2 つの要素がある。テキストの変換 (ローマ字化) の方法は、主にこのローマ字変換表のセクション 2~5 および 7 で説明されている。単語の分割はセクション 6 で説明されている。これらの 2 つの要素は、常に慎重に検討する必要がある。RT は実例から導き出された手引きと多くの例示を提示している。

具体的な指示は、"[ローマ字/仮名対照表](#)"の下にも記載されている。一般的に、平仮名または片仮名でのみ書かれた単語および単語の一部は、表示されたとおりにローマ字化する必要がある。目録対象資料のテキストに特定の読みが示されている場合は、それを使用する。疑わしい場合は、標準的な日本語辞書 ("[参考文献](#)" を参照) を使用して、可能な限り最新の読み方を用いる。

2.2 優先する読みの情報源

目録対象資料に表示されるテキストに複数の読みが存在する場合は、その資料に別の読みが表記されている場合を除き、ほとんどの辞書で優先している読みを用いる。

資料上のテキスト: 私
ローマ字表記: watakushi
推奨される異形: watashi

資料上のテキスト: 大地震
ローマ字表記: daijishin
推奨される異形: ōjishin

資料上のテキスト: 重複
ローマ字表記: chōfuku
推奨される異形: jūfuku

2.3 優先する読み: 例外

2.3.1 不変化詞

"は" と "へ" が不変化詞 (助詞) として用いられている場合は, "wa" と "e" にローマ字化する。

2.3.2 歴史的な仮名の使用法 (歴史的仮名遣い | rekishiteki kanazukai)

その作品に特定の読みが振られていない限り, 最新の読みを用いる。仮名単位の直接の読みを異形として追加する場合がある。

資料上のテキスト (歴史的用法): てふてふ
現代の用法: ちょうちょう
ローマ字表記: chōchō
推奨される異形: tefutefu

資料上のテキスト (歴史的用法): ぬゑのたんじやう
現代の用法: ぬえのたんじょう
ローマ字表記: Nue no tanjō
推奨される異形: Nue no tanjiyau

資料上のテキスト (歴史的用法): おもひでぼろぼろ
現代の用法: おもいでぼろぼろ
ローマ字表記: Omoide poroporo
推奨される異形: Omohide poroporo

2.4 優先する読み: 複雑なケース

2.4.1 確定した読みのある固有名

特定の非標準的な読みが、その実体に関連する Web サイト、参考情報源、またはその他の出版物で一般的に見られる場合は、それを用いる。

資料上のテキスト: 本朝書籍目録 (図書のタイトル)
ローマ字表記: Honchō shojaku mokuroku
推奨される異形: Honchō shoseki mokuroku

資料上のテキスト: 圖書寮 (または 図書寮)
ローマ字表記: Zushoryō
推奨される異形: Toshoryō

資料上のテキスト: 大日本帝国
ローマ字表記: Dai Nippon Teikoku
推奨される異形: Dai Nihon Teikoku

資料上のテキスト: 日本永代蔵
ローマ字表記: Nippon eitaigura
推奨される異形: Nihon eitaigura

2.4.2 借用語 (外来語)

2.4.2.1 仮名で書かれた借用語 (外来語 | gairaigo)

仮名単位でローマ字化する。異形として別の読み方を追加することができる。

資料上のテキスト: コミュニティ
外来語としての一般表記: コミュニティ
ローマ字表記: komiyunitei
推奨される異形: komyuniti

資料上のテキスト: スタア

外来語としての一般表記: スター

ローマ字表記: sutaa

推奨される異形: sutā

資料上のテキスト: テレビジョン

外来語としての一般表記: テレビジョン

ローマ字表記: terebijion

推奨される異形: terebijon

資料上のテキスト: ギリシア

外来語としての一般表記: ギリシャ

ローマ字表記: Girishia

推奨される異形: Girisha

資料上のテキスト: シンポジウム

ローマ字表記: shinpojiumu

推奨される異形: shinpojūmu

資料上のテキスト: シンポジウム

ローマ字表記: shinpojūmu

2.4.2.2 漢字で書かれた外国の地名

もともと中国文字で書かれた, または漢字を使用して音訳された外国の地名は, 2.2 および 2.4.1 に従い, 目録対象資料に特定の読みが示されていない限り, 優先情報源を使用して読みを確定する. 異形として別の読み方を追加することができる. 6.10 をも見よ.

香港 | Honkon

濟州島 | Chejutō (推奨される異形: Chejudō, Saishūtō, または Saishūdō)

紐育 | Nyū Yōku (推奨される異形: Nyūyōku)

加奈陀 | Kanada

亜米利加 | Amerika

2.4.3 異形としての別のローマ字表記

目録作成者の判断に基づいて, 異形のローマ字表記を書誌および典拠レコードに追加することができる.

資料上のテキスト: その後

ローマ字表記: sonogo (推奨される異形: sono go)

推奨される異形: sono ato
推奨される異形: sono nochi
推奨される異形: sonoato
推奨される異形: sononochi

資料上のテキスト: 行く年来る年
ローマ字表記: yuku toshi kuru toshi
推奨される異形: yukutoshi kurutoshi

資料上のテキスト: 等
ローマ字表記: tō
推奨される異形: nado
推奨される異形: ra

2.5 長母音, 隣接母音, および例外

日本語のテキストでは, 長い母音を示すためにいくつかの方法が使用されている. 5.1. をも見よ.

2.5.1 長音符号 (音引き) | ー | 長音符 | chōonpu
長音符号 (音引き) で書かれた母音はマクロン付きでローマ字化する.

コンピュータ | konpyūta
ニューヨーク | Nyū Yōku
ケンタッキー | Kentakkī
ウィーク | wīku
ビードロ | bīdoro
そーと | sōtto

2.5.2 マクロン付きのローマ字化: 最後が u で終わる音節
“u” で終わる長い母音はマクロン付きでローマ字化する.

孔子 | Kōshi, Koushi ではない
労働 | rōdō, roudou ではない
情報 | jōhō, jouhou ではない
昨秋 | sakushū, sakushuu ではない
流水 | ryūsui, ryuusui ではない
お父さん | otōsan, otousan ではない

トウサン | tōsan, tousan ではない

2.5.3 マクロン付きのローマ字化: ā, ē および ō

"a", "e" および "o" の長い母音はマクロン付きでローマ字化する。

お母さん | okāsan, okaasan ではない

ああ播磨灘 | Ā Harimanada, Aa Harimanada ではない

バアサン | bāsan, baasan ではない

お姉さん | onēsan, oneesan ではない

茂兵衛 | Mohē, Mohee ではない

ええじゃないか | ē ja nai ka, ee ja nai ka ではない

狼 | ōkami, ookami ではない

オオカミ | ōkami, ookami ではない

ほおずき | hōzuki, hoozuki ではない

遠い | tōi, tooi ではない

2.5.4 長い "i" 母音

長い "i" 母音は、長音符号 (ー) で書かれている場合を除き、常に "ii" (二重の "i") としてローマ字化する。長音符号 (ー) で書かれている場合はマクロン付き (ī) でローマ字化する。2.5.1 を見よ。

新潟 | Niigata, Nīgata ではない

飯田 | Iida, Īda ではない

お兄さん | oniisan, onīsan ではない

びいどろ | biidoro, bīdoro ではない

ただし: ビードロ | bīdoro, biidoro ではない

物言い | monoi, monoi ではない

ジイサン | jiisan, jīsan ではない

2.5.5 形態素境界の例外

隣接する母音が「形態素」と呼ばれる2つの「意味のある単位」の境界を跨る場合は、長い母音ではなく、別々の母音としてローマ字化する。例えば短縮した読み、固有名詞、方言などの長年の慣習的な読み等、境界について疑問がある場合は、2.5.1-2.5.4 に従う。

2.5.5.1 形態素境界を跨る隣接母音

子牛 | koushi (子 ko + 牛 ushi, kōshi ではない)

長雨 | nagaame (長 naga + 雨 ame, nagāme ではない)
会社案 | kaishaan (会社 kaisha + 案 an, kaishān ではない)
本居 | Motoori (本 Moto + 居 ori, Motōri ではない)
腐れ縁 | kusareen (腐れ kusare + 縁 en, kusarēn ではない)

2.5.5.2 動詞末尾の“う | u”: 2つのタイプ

2.5.5.2.1 形態素: 現代の動詞

「辞書形」の動詞の母音に追加された末尾の“う | u”は、それ自体で形態素（意味のある単位）を構成している。従って、長い母音ではなく前の母音とは別の文字としてローマ字化する。

縫う | nuu, nū ではない
問う | tou, tō ではない
思う | omou, omō ではない

2.5.5.2.2 非形態素: 候 | sōrō

対照的に、“候”に追加された最後の“u | う”は、別個の意味のある単位（形態素）とは見なされない。前の子音と母音と組み合わせて、単一の形態素音節を形成している。従って、この最後の母音は長い母音としてローマ字化する。

候, 候ふ, そうろう | sōrō, sourou ではない

3 大文字使用法

以下の規定に従って、すべての固有名詞の先頭文字を大文字にする。不変化詞は大文字にしない。以下の指示のいずれも固有名詞に当てはまらない場合、カタログーは英語資料の標準的な目録慣行に従うことが推奨されている。ただし必須ではない。

3.1 個人名

個人名の各単語を大文字にする。

菅原孝標女 | Sugawara no Takasue no Musume

3.2 敬称および呼称の用語

個人名の後に, san, sama, chan, kun 等の 1 文字また仮名が続き, ハイフンで繋ぐ場合を除き, 敬称および呼称の用語を大文字にする. 6.9.2.3 を見よ.

弘法大師 | Kōbō Daishi
お菊さん | Okiku-san
井上さん | Inoue-san
内閣総理大臣田中角栄 | Naikaku Sōri Daijin Tanaka Kakuei
ただし: 内閣総理大臣 | naikaku sōri daijin (一般的な職業としての用法)

3.3 地名

地名の各単語を大文字にする.

横浜 | Yokohama
日本列島 | Nihon Rettō
有楽町 | Yūraku-chō
太平洋 | Taiheiyō
房総半島 | Bōsō Hantō
東洋 | Tōyō
富士山 | Fujisan
淀川 | Yodogawa

3.4 団体および会議名

団体名と会議名の各単語を大文字にする.

戦争を記録する会 | Sensō o Kirokusuru Kai
国際仏教文化学会 | Kokusai Bukkyō Bunka Gakujutsu Kaigi
日本陸軍 | Nihon Rikugun
中央公論新社 | Chuō Kōron Shinsha
ただし: 中央公論 | Chuō kōron (雑誌名)

3.5 著作名

文書、出版物、芸術品、等の著作名の最初の単語を大文字にする。著作名に含まれる固有名称は、他の大文字使用法規則に従って大文字にする。

徒然草 | Tsurezuregusa
朝日新聞 | Asahi shinbun
労働組合法 | Rōdō kumiai hō
日本国有鉄道就業規則 | Nihon Kokuyū Tetsudō shūgyō kisoku
蛍の光 | Hotaru no hikari
富嶽三十六景 | Fugaku sanjūrokkei

3.6 歴史的および文化的な出来事と時代

3.6.1 歴史的または文化的な出来事の名称の各単語を大文字にする。

第二次世界大戦 | Dainiji Sekai Taisen
二・二六事件 | Niniroku Jiken
明治維新史 | Meiji Ishin shi
関ヶ原の戦い | Sekigahara no Tatakai
祇園祭 | Gionmatsuri
関東大震災 | Kantō Daishinsai
福島原発事故 | Fukushima Genpatsu Jiko

3.6.2 歴史的または文化的な時代の名称の最初の単語を大文字にする。

縄文時代 | Jōmon jidai
六朝時代 | Rikuchō jidai
平安朝 | Heianchō
昭和期 | Shōwaki
幕末 | Bakumatsu
バロック | Barokku
ルネサンス | Runesansu

3.7 構造物、等

建築物、施設、記念碑、またはその他の構造物の名称と、道路または街路の名称を大文

字にする。

高松塚古墳 | Takamatsuzuka Kofun
成田空港 | Narita Kūkō
日比谷公園 | Hibiya Kōen
永源寺ダム | Eigenji Damu
東京スカイツリー | Tōkyō Sukai Tsurī
甲州街道 | Kōshū Kaidō

3.8 宗教および宗派

宗教および宗派の名称を大文字にする。

佛教 | Bukkyō
キリスト教 | Kirisutokyō
神道 | Shintō
禅宗 | Zenshū
浄土真宗 | Jōdo Shinshū

3.9 固有名の派生語

3.9.1 大文字にする場合

一般的に、固有名として用いられる場合、固有名の派生語を大文字にする。ただし、時には固有名の派生語が新たに別の普通名詞の意味を獲得する場合がある。そのような場合は 3.9.2 および 3.9.3 を見よ。

日本人 | Nihonjin
アメリカ人 | Amerikajin
華僑 | Kakyō
日本兵 | Nihonhei
日本刀 | Nihontō
日本酒 | Nihonshu
日本画 | Nihonga
日本史 | Nihonshi
日本語 | Nihongo
英語 | Eigo
日本学 | Nihongaku

漢学 | Kangaku
英文学 | Eibungaku
陽明学 | Yōmeigaku
キリスト者 | Kirisutosha
キリシタン | Kirishitan
仏教徒 | Bukkyōto
禅僧 | Zensō
佛画 | Butsuga
禅寺 | Zendera

3.9.2 大文字にしない場合

固有名の派生語が新たに別の普通名詞の意味を獲得している場合、固有名の派生語を大文字にしない。このための規範的で包括的な規定を事前に策定することは困難なため、カタログガーは決定を行う際に一般のおよび長期的な使用法を評価する必要がある。

呉服 | gofuku
瀬戸物 | setomono
アラビア数字 | arabia sūji
ローマ字 | rōmaji
ボストンバッグ | bosuton baggu

3.9.3 “和”, “漢”, “洋”, 等の特別なケース

これらの文字は、他の文字と組み合わせて使用され、英語の翻訳で "日本[の]", "中国[の]", "西洋[の]" を意味する単語を形成する。ただし、形成された単語が特に国、王朝、言語、または国民的/民族的実体を示していない限り、それら、またはそれらと組み合わせて作成された単語を固有名としては扱わない。

3.9.3.1 国民の実体を示していない

和室 | washitsu
洋酒 | yōshu

3.9.3.2 国民または言語を示す

和寇 | Wakō ([と呼ばれる] 国民的/民族的属性の人々のグループ [すなわち、海賊])
和英辞典 | Wa-Ei jiten (この例では "和" は日本語を指す)
倭人 | Wajin

倭国 | Wakoku
その他の例:
漢字 | kanji
漢方 | kanpō
漢薬 | kan'yaku
ただし: 漢 | Kan (漢王朝)

4 日本語の句読点と活字記号

日本語のテキストには、さまざまな形式の句読点や活字記号が含まれている。日本語の句読点をローマ字化する際の手引きとして、以下の規定と例を使用する。ここにない句読点や活字記号が現れた場合、または単純な変換が不適切な場合は、最善の判断を用い、必要に応じて異形からの参照を行う。

4.1 中点 “中黒 | Nakaguro”

単語の分割に使用される中点 (・) を、ローマ字化された単語の意味が明確になる場合は、コンマとスペースに変換する。わかりやすくするためのコンマが不要な場合は、スペースに変換する。数字の間に現れる中黒については、7.5 を見よ。

松本清長・山本周五郎集 | Matsumoto Seichō, Yamamoto Shūgorō shū
ポール・クローデル | Pōru Kurōderu

4.2 句読点と活字記号に相当するローマ字表記

日本語の句読点に、以下で示すヨーロッパ言語で使用される並列形式を使用して標準的なローマ字表記の同等物を用いる。

以下の例で示す順序: 英語名 | 日本語記号 | ローマ字記号

Comma (コンマ) | 、 | ,
period (ピリオド) | 。 | .
question mark (疑問符) | ？ | ?
exclamation point (感嘆符) | ！！ | !!
tilde (ティルド) | ～ | - (数字と日付で使用, 意味: "から… | from …"; または日付範囲に使用される2つの日付間のハイフン)
quotation mark type 1 (引用符 1 型) | 「」 | "" (注: 鉤括弧)

quotation mark type 2 (引用符 2 型) | 『』 | "" (注: 二重鉤括弧)
equal sign (等号) | = | =

4.3 角括弧と丸括弧

日本の出版物には下記に示すものを含め、さまざまな形の角括弧と丸括弧が現れる。

angle brackets (山括弧) | 〈〉 | < >
double angle brackets (二重山括弧) | 《》 | < >
brackets (角括弧) | [] | [] (注: 亀甲括弧)
brackets (角括弧) | [] | [] (注: 隅付き括弧(白))
brackets (角括弧) | [] | [] (注: 二重亀甲括弧)
brackets (角括弧) | [] | [] (注: 二重角括弧)
parentheses (丸括弧) | () | ()

4.4 ローマ字に相当するものがない活字記号

4.4.1 反復

反復の印 ">" と "々" は前の音節の繰り返しを示す。

蝶々 | chōchō
日々 | hibi
年々 | nennen
こゝろ | Kokoro

4.4.2 ゲタ [位置保持記号] | 二

徹底的に調べても正しい文字がわからない場合にゲタ記号を使うことがある。欠落している文字のローマ字読みを括弧の中に記入する。

5 ローマ字表記で使用する発音符号およびその他の記号

日本語をローマ字表記するために、標準のローマ字に加えて発音符号やその他の記号を使用する。特別なケースと例外は セクション 2.5 を見よ。

5.1 マクロン (長音符号)

文字 a, i, u, e, o にマクロン (¯) を重ねて長い母音を示す。事例は 2.5 を見よ

5.2 アポストロフィ (省略符号)

最初の音節が文字 n で終わり、次の音節が母音 (a, i, u, e, o) または y で始まる場合は、音節間にアポストロフィ (') を挿入する。アポストロフィは、最後の n が前の音節の一部であることを示している。

長井憲一 | Nagai Ken'ichi
信越 | Shin'etsu
翻訳 | hon'yaku
万葉 | Man'yō
親愛なる | shin'ainaru
三億円 | san'okuen
真打 | shin'uchi

6 単語分割 (分かち書き)

6.1 単語とは何?

スペースがほとんどない日本語のスク립トとは異なり、ローマ字化する日本語のテキストには単語間にスペースを挿入する。オックスフォード英語辞典 (OED) によると、単語とは「言葉、言語、等の要素または単位」である。OED ではさらに、単語について次のように説明している: "言語中で文章または発言を形成する際に使用される意味のある言葉の基本単位を構成する 1 つ以上の音または形態素 (母国語話者が直感的に認識する) の連続のいずれか (およびほとんどの書記体系で、通常はスペースで区切る); 句または接尾辞以外の語彙単位; 語彙の項目…". この OED 定義と次のガイドラインを念頭に置いて単語分割の規定を適用する。

6.1.1 単語を分割する

原則として、単語を互いに別々に書く。疑わしい場合は、このセクションの規定と手順を参照して、単語の境界を決定する。必要に応じて異形からの参照を追加する。

6.1.2 単語分割セクションの構成

パート 6.2 から 6.7 では名詞と代名詞を扱い、これには複合語や外国語などの他の複雑なケースが含まれている。パート 6.8 は、動詞、形容詞、副詞など、他の品詞と関連する複合語を扱っている。

6.2 単語として書く場合

6.2.1 複合語

複合語は 2 以上の単語を結合して 1 個の長い単語にする場合に作り出される。

我々 | wareware
手足 | teashi
我輩 | wagahai
霧雨 | kirisame
昔話 | mukashibanashi
水盃 | mizusakazuki
誰か | dareka ["somebody (ある人)" を意味する場合]; 6.9.4 をも見よ。
嫌がらせ | iyagarase
浮世絵 | ukiyoe
送りがな | okurigana
論叢 | ronsō
国政 | kokusei
家族 | kazoku
国民 | kokumin

6.2.2 中間に “の | no” を含む複合語

中間に “の | no” を含む、よく使われる複合語は 1 つの単語として扱う。このような単語は主要な辞書によく掲載されている。6.8.4 および 6.9 をも見よ。

茶の間 | chanoma
茶の湯 | chanoyu
世の中 | yononaka
日の出 | hinode
男の子 | otokonoko
草の根 | kusanone
きのこ | kinoko
たけのこ | takenoko
虎の巻 | toranomaki
女童 | menowarawa (古典的用法)

ただし: 先の戦 | saki no ikusa

くだんのはは | Kudan no haha

意味内容による判定: ヤマノイモ | yamanoimo (自然薯に対して普通に使われる標準的な日本名, 学名: *Dioscorea japonica*) [注: ヤマノイモ科ヤマノイモ属のつる性多年草, また, この植物の芋として発達した担根体. ジネンジョ, ヤマイモともよばれる.]

山の芋 | yama no imo ("山のジャガイモ" を意味する場合)

6.2.3 音読み単一文字修飾子による複合語

音読み単一文字の修飾子が付加されている場合は単一の複合語として表記する。

業思想 | gōshisō

核戦争 | kakusensō

核家族 | kakukazoku

寮生活 | ryōseikatsu

6.3 別々の単語として表記する場合

6.3.1 仮名または訓読み文字修飾子を含む単語

訓読み文字または仮名による修飾子が使用されている場合は単語を別個に表記する。

わが息子 | waga musuko

我国 (わが国) | waga kuni

我が子 | waga ko

この国 | kono kuni

あの町 | ano machi

女絵かき | onna ekaki

ゲイ作家 | gei sakka

味自慢 | aji jiman

ペット自慢 | petto jiman

琴合奏 | koto gassō

ピアノ合奏 | piano gassō

水資源 | mizu shigen

米騒動 | kome sōdō

男相手 | otoko aite

6.3.2 括弧で括られた単一の文字または単語

鉤括弧, 引用符, または丸括弧で括られた語句や文字をスペースで区切る. 4.2 および

4.3 をも見よ.

「仁」思想 | "jin" shisō
「核」論争 | "kaku" ronsō
「わたし」改革 | "watashi" kaikaku

6.4 複合語からなる句 (熟語)

隣接する 2 つ以上の複合語を別個に表記する.

六朝時代 | Rikuchō jidai
国民主義 | kokumin shugi
東洋学会 | Tōyō Gakkai
日本国政事典 | Nihon kokusei jiten
耳鼻咽喉科 | jibi inkōka
学校図書館法 | Gakkō toshokanhō
国分寺資料調査報告書 | Kokubunji shiryō chōsa hōkokusho
兄弟姉妹達 | kyōdai shimaitachi

6.4.1 複合語中での読みの変化

組み合わせによって音声変化する場合は複合語をハイフンで繋ぐ.

女中奉公 | jochū-bōkō
文芸読本 | bungei-dokuhon
株式会社 | kabushiki-gaisha
交流試合 | kōryū-jiai
夫婦喧嘩 | fūfu-genka
南部相撲 | Nanbu-zumō

6.4.1.1 連続する単一文字

6.4.1.1.1 音読み

音読みする単一文字が連続する場合は 1 つの単語として表記する.

都道府県 | todōfuken
市区町村 | shikuchōson
市町村 | shichōson
土農工商 | shinōkōshō

衣食住 | ishokujū
春夏秋冬 | shunkashūtō
花鳥風月 | kachōfūgetsu
冠婚葬祭 | kankonsōsai

6.4.1.1.2 訓読み

訓読みする単一文字が連続する場合は別個に表記する。

春夏秋冬 | haru natsu aki fuyu
父母 | chichi haha (音読みの場合: fubo)
兄妹 | ani imōto

6.4.2 単一の仮名文字

単一の仮名文字が連続する場合は1つの単語として表記する。

てにをは | tenioha
こそあど | kosoado
ただし: あれこれ | are kore (2文字の仮名单語が連続している)

6.4.3 共通の実体と結びつく単一文字修飾子

共通の実体を持つ単一文字の修飾子を1つの単語として表記する。中点(・)で区切られている場合にのみハイフンで繋ぐ。4.1 をも見よ。

小・中学校 | shō-chūgakkō
小・中・高等学校 | shō-chū-kōtō gakkō
小・中規模企業 | shō-chūkibo kigyō
上・下水道 | jō-gesuidō
農山漁村 | nōsangyoson
中・近世 | chū-kinsei
中近世 | chūkinsei
農・工・鉱業 | nō-kō-kōgyō
文・史・哲学 | bun-shi-tetsugaku
行財政 | gyōzaisei
乳幼児 | nyūyōji

6.4.4 読みが変化する複合語

6.4.4.1 成句中での読みの変化

広く定着した成句が読みの変化を伴う場合は単一の複合語として表記する。

口下手 | kuchibeta
雪景色 | yukigeshiki
土砂降り | doshaburi
理屈通り | rikutsudōri
大和魂 | yamato-damashii

6.4.4.2 企業名中の "会社"

企業名中に現れる場合は、音声の変化を無視して "会社" を常に "Kaisha" と表記する。

日産自動車株式会社 | Nissan Jidōsha Kabushiki Kaisha
沖縄文化有限会社 | Okinawa Bunka Yūgen Kaisha
木内酒造合資会社 | Kiuchi Shuzō Gōshi Kaisha

6.5 接頭辞

6.5.1 通則

6.5.1.1 敬語の接頭辞

敬語の接頭辞 "御" の読み "o", "go", "mi", または "on" を、それが修飾する用語と繋げて表記する。

お誕生日会 | otanjōbikai
お送り致しましょう | ookuri itashimashō
お出掛け遊ばしますか | odekake asobashimasu ka
おフランス | Ofuransu
御祝儀袋 | goshūgibukuro
ご婦人方 | gofujingata
御世 | miyo
御曹司 | onzōshi
御大将 | ontaishō

6.5.1.2 接頭辞が一緒に書かれている場合

接頭辞がそれに続く単語の一部であるとカタログャーが判断した場合、それを 1 つの単語として表記する。疑わしい場合は異形からの参照を追加する。

古生物学 | koseibutsugaku
大人物 | daijinbutsu
大往生 | daiōjō
新幹線 | shinkansen
旧体制 | kyūtaisei
新建築 | shinkenchiiku
超大国 | chōtaikoku
全注釈 | zenchūshaku
小綺麗 | kogirei
各種 | kakushu
大納言 | dainagon
真犯人 | shinhannin
軽自動車 | keijidōsha
非常識 | hijōshiki
異文化 | ibunka
超音波 | chōonpa
不可能 | fukanō
大地震 | ōjishin
古伊万里 | Koimari

6.5.2 接頭辞を分けて表記する場合

6.5.2.1 修飾される語の意味が接頭辞から独立している場合は、接頭辞と単語を分けて表記する。疑わしい場合は異形からの参照を追加する。

各議員 | kaku giin
当施設 | tō shisetsu
一図書館員 | ichi toshokan'in
各都道府県 | kaku todōfuken

6.5.2.2 接頭辞が片仮名の借用語を修飾する場合は、接頭辞と分けて表記する。

全マニユアル | zen manyuaru
元ボクサー | moto bokusā
各セクション | kaku sekushon
新アニメシリーズ | shin anime shirīzu

6.5.3 複合熟語の接頭辞

後続の複数の単語を修飾する接頭辞, または直後ではない単語を修飾する接頭辞を分けて表記する.

新植民主義 | shin shokuminchi shugi
大人名事典 | dai jinmei jiten
小文学辞典 | shō bungaku jiten
各無産政党 | kaku musan seitō
一記念写真 | ichi kinen shashin

6.6 接尾辞

6.6.1 通則

単一要素の尾辞辞を追記して形成された複合語は一語として表記する.

耳鼻科 | jibika
経済的 | keizaiteki
生物学 | seibutsugaku
人生観 | jinseikan
唯物論 | yuibutsuron
健康法 | kenkōhō
落穂集 | Ochiboshū
カロリー表 | karorīhyō
エッセイ集 | esseishū
経済学史 | Keizaigakushi
現代語訳 | gendaigoyaku
外国語学 | gaikokugogaku
作曲者名 | sakkyokushamei

6.6.2 接尾辞として用いられる "編, 篇", "抄, 鈔", および "展"

6.6.2.1 分けて表記する場合

図書の部編に用いる接尾辞 hen (編, 篇), 抜粋または論評・注釈に用いる shō (抄, 鈔), 論文または草案・草稿に用いる kō (考, 稿), 展覧会, 展示会, 博覧会に用いる ten (展) は, それらの前の単語と分けて表記する.

君が代考 | Kimigayo kō
戦前編 | senzen hen
美人画展 | bijinga ten

戦前戦後編 | senzen sengo hen
日本食肉史抄 | Nihon shokunikushi shō
日本印書考 | Nihon insho kō
支那書誌学稿 | Shina shoshigaku kō
東西美術交流 300 年展 | Tōzai bijutsu kōryū 300-nen ten
横浜市史稿 | Yokohama shishi kō

6.6.2.2 例外: 複合語の一部として扱う

接尾辞を複合語の一部として扱う方が理にかなっている場合は、前の要素と一緒に表記する。

前編 | zenpen
私考 | shikō
草稿 | sokō
特別展 | tokubetsuten
企画展 | kikakuten

6.7 造語を含む借用語 (外来語)

6.7.1 通則

他の言語から借用された表現には外国語からの直接的流用と、造語または外国語に基づいた作り言葉の両方が含まれるが、日本語で使用する場合、形式と意味に左右される。借用した表現の中には簡単な方法で別々の単語に分割されているものがある。ただし、単語間の境界がそれほど明確でない場合もある。各自最善の判断を下し、必要に応じて異形からの参照を追加する。

ベストセラー | besuto serā (best seller)
マスメディア | masu media (mass media)
アール・ヌーヴォー | Āru Nūvō (Art Nouveau)
アヴァンギャルド | avan gyarudo (avant-garde) 推奨される異形:
avangyarudo
ファッションデザイナー | fasshon dezainā (fashion designer)
コンピュータプログラミング | konpyūta puroguramingu (computer programming)
サラリーマン | saraīman (salaryman = business man) 推奨される異形:
saraī man
チアガール | chiagāru (cheer girl = cheerleader) 推奨される異形: chia

gāru

6.7.2 短縮された借用語 (外来語)

外国語の短縮形を組み合わせた造語は一語として表記する.

ワープロ | wāpuro (word processor)
エアコン | eakon (air conditioner)
アメフト | amefuto (American football)

6.7.3 外国の地名

外国の地名は通則 (6.7.1) に従う.

ホンコン | Honkon (香港)
北京 | Pekin
ペキン | Pekin

ただし, 外国の地名は原語の単語の区切りを反映させてローマ字表記する. このような場合は, 異形の併記を強く推奨する.

ニューヨーク | Nyū Yōku (New York); 異形: Nyūyōku
ニュージーランド | Nyū Jīrando (New Zealand); 異形: Nyūjīrando
サンフランシスコ | San Furanshisuko (San Francisco); 異形:
Sanfuranshisuko
サンパウロ | San Pauro (São Paulo); 異形: Sanpauro

場合により, 外国語の仮名表記が元の単語の綴りから予想される間隔空けが行えないことがある. もしそうなら, 間隔を空けずに表記する.

ロサンゼルス | Rosanzerusu (Los Angeles)
ただし: ロスアンゼルス | Rosu Anzerusu (Los Angeles)
サンノゼ | Sannoze (San Jose)
ただし: サンホゼ | San Hoze (San Jose)

日本語を追加して書かれた外国の地名は, 通則 (6.7.1) と地名 (6.10) にある例示の両方に従う.

ホーチミン市 | Hō Chi Min-shi
カリフォルニア州 | Kariforunia-shū
ニューヨーク市長 | Nyū Yōku shichō
グランドセントラル駅 | Gurando Sentoraru-eki
ゴビ砂漠 | Gobi Sabaku

6.8 その他の品詞

名詞以外の品詞が個別に、または複合語とともに用いられている場合は、次のガイドラインを適用する。

6.8.1 動詞

6.8.1.1 補助動詞

助動詞を伴った活用形と短縮形の動詞は一語として表記する。

生きてる | ikiteru
支配する | shihaisuru
ドライブする | doraibusuru
読み得る | yomiuru
なし得ない | nashienai
関する | kansuru
思い出す | omoidasu

6.8.1.2 修飾語付きの動詞

副詞または語形変化する形容詞から動詞を切り離して表記する。

どう考える | dō kangaeru
そうする | sō suru
こうなる | kō naru
強くなる | tsuyoku naru
美しくなりたい | utsukushiku naritai
生きていた | ikite ita
帰って来る | kaette kuru
やって見よう | yatte miyō
戴いていきます | itadaite ikimasu
言っているのだが | itte iru no da ga

6.8.1.3 敬語および類似する助動詞

敬語助動詞, "できる" および "できない" などの潜在的な助動詞, および他の同タイプの助動詞を, 動詞の他の部分とは切り離して表記する。

我慢出来るか | gaman dekiru ka

我慢出来ません | gaman dekimasen
死にたまう・死にたもう | shini tamau, shini tamō
今回の主催地は日本らしい | jikai no shusaichi wa Nihon rashii ["らしい" が
助動詞として用いられ, "It appears to be Japan" を意味している]
よろしく願い致します | yoroshiku onegai itashimasu
読ませて頂きます | yomasete itadakimasu

6.8.2 形容詞

複合語の形容詞と形容動詞を単語として表記する.

如何なる | ikanaru
魅力ある | miryokuaru
抵抗なき | teikōnaki
堂々たる | dōdōtaru
恐るべき | osorubeki
誤った作法・誤りやすい作法 | ayamatta sahō, ayamariyasui sahō
嬉しい | ureshii
あどけない | adokenai
うそっぽい | usoppoi
日本らしい風景 | Nihonrashii fūkei [ここでの "らしい" は "Japan-like (日本的)" を意味する形容詞として用いられている. 単語として表記する.]

6.8.3 副詞と接続詞

副詞と接続詞の合成語を単語として表記する.

特に | tokuni
並に | narabini
共に | tomoni
遂に | tsuini
如何に | ikani
直ぐに | suguni
又は | matawa
或いは | aruiwa
その後 | sonogo
その後 | sonoato
これから | korekara
それでも | soredemo ["nonetheless (にもかかわらず)" を意味する接続詞として用いられた場合]

6.8.4 不変化詞

一般的な慣用句の途中で用いられる“の | no”を除き、不変化詞を他の単語と別に、および互いに別々に表記する (6.2.2 を見よ)

幸福への道 | kōfuku e no michi

絵は誰にでも描ける | E wa dare ni de mo kakeru

そういう本を読むのが楽しい | Sō iu hon o yomu no ga tanoshii

雲の上に | kumo no ue ni

うれしいな | ureshii na

何だろうか | nan darō ka

さらりと | sarari to

それでも | sore de mo [代名詞+助詞+助詞として用いられた場合: [英語の意味] that or the like]

誰か | dare ka ["who" という意味の疑問形で用いられた場合] 6.2.1 を見よ

場合によって "no" は縮約される:

頭の中 | atama n naka

オレン家 | ore n chi

そうだったんだ | sō datta n da

6.9 固有名の例外

次の5つの例外を除き、一般的な単語分割規定に従って固有名中の単語を分割するか、または他の単語から固有名を切り離す。

6.9.1 個人名, 団体名, および著作のタイトル

6.9.1.1 典型例

接辞を個人名, 団体名, および著作のタイトル (法律, 音楽作品, 等を含む) とは切り離して表記する. 6.9.3 および 6.9.4 を見よ.

リンカーン伝 | Rinkān den

丹羽文雄集 | Niwa Fumio shū

国立国会図書館報 | Kokuritsu Kokkai Toshokan hō

続日本後記 | Shoku Nihon kōki

續群書類従 | Zoku Gunsho ruijū

独占禁止法上 | Dokusen kinshihō jō

6.9.1.2 船舶, 飛行機, 列車, 等の名称

名付けられた船舶, 飛行機, 列車, 等に使用される "maru | 丸" や "gō | 号" などの接尾辞を直前の単語とは切り離して表記する.

浅間丸 | Asama Maru

はやぶさ(隼)号 | Hayabusa Gō

プレジデント・ウィルソン号 | Purejidento Wiruson Gō

6.9.1.3 短縮された固有名

短縮された固有名から成る, またはそれを含む語を単語として表記する. 6.10.8 をも見よ.

沙翁物語 | Saō monogatari

福翁百話 | Fukuō hyakuwa

産総研 | Sansōken

6.9.2 特別な用法

次の規定を上記 6.9.1 より優先させる.

6.9.2.1 確立した団体名, 研究分野, 等

確立された企業名, 研究分野, 等に個人名が組み込まれている場合は接尾辞に対する原則に従う (6.6.1 を見よ).

陽明学 | Yōmeigaku

徂徠学 | Soraigaku

蘇峰会 | Sohōkai

小野組 | Onogumi

ただし, カタログが, その単語が 1 回限りの出版物または出来事のために新たに形成されたと判断した場合は, 上記 6.9.1 に従う.

芥川龍之介学 | Akutagawa Ryūnosuke gaku

漱石学 | Sōseki gaku

6.9.2.2 特殊な音読み

音読みに変更された固有名を含む複合語を一語として表記する.

義経記 | Gikeiki (“義経” の通常の読みは Yoshitsune)

信長記 | Shinchōki (“信長” の通常の読みは Nobunaga)
源氏 | Genji (家名/名字としての “源” の通常の読みは Minamoto)
平家 | Heike (家名/名字としての “平” の通常の読みは Taira)
ただし: 左氏 | Sa-shi (中国の家名/名字. “左” の読みは “氏” の付記によっても変化しない). 6.9.2.3.4 をも見よ

6.9.2.3 肩書, 敬称, および複数形の接尾辞

6.9.2.3.1 複合語の肩書または敬称, および接続詞として “の | no” を用いた句
複合語の肩書または敬称を名称と切り離して表記する. また, 肩書と名称を結びつけるために使用される “の | no” も名称と切り離して表記する.

聖サビエル | Sei Sabieru
明治天皇 | Meiji Tennō
待賢門院 | Taiken Mon'in
竹沢先生 | Takezawa Sensei
北白川の宮様 | Kitashirakawa no Miya-sama
大岡越前守 | Ōoka Echizen no Kami

6.9.2.3.2 単一文字または仮名の接尾辞

個人名に続く肩書, 敬称, および複数形の接尾辞が単一文字または仮名の場合は, それらをハイフンで繋ぐ.

芭蕉翁 | Bashō-ō
覚信尼 | Kakushin-ni
後鳥羽院 | Gotoba-in
お菊さん | Okiku-san
中村君 | Nakamura-kun
ノンちゃん雲に乗る | Non-chan kumo ni noru
竜馬たち | Ryōma-tachi

6.9.2.3.3 個人名の短縮形

ただし, 肩書や敬称を追加することで形成される短縮形は 1 語で表記する.

さっちゃん | Satchan
マッサン | Massan

6.9.2.3.4 家族と氏族

家族名または氏族名の後に続く接尾辞をハイフンで繋ぐ。

徳川家 | Tokugawa-ke
メディチ家 | Medichi-ke
ハイド氏 | Haido-shi

6.9.2.3.5 敬称を含む肩書や接尾辞付きの個人名
肩書と個人名に続く接尾辞をハイフンで繋ぐ。

日蓮上人様 | Nichiren Shōnin-sama
悠仁親王様 | Hisahito Shinnō-sama
明治天皇家 | Meiji Tennō-ke
徳川将軍家 | Tokugawa Shōgun-ke

6.9.3 地名およびその他の固有名

地名およびその他の固有名詞（ただし、個人名、団体名、または著作のタイトルを除く）は、一般的な単語分割規則に従うが、必要に応じて他の要素と共に複合語を形成する場合がある。ただし、管轄区域や地理的特徴などを表すために地名を他の要素と組み合わせる場合は、地名の例外規則（6.10.2-6.10.8 を見よ）に従う。

日本史 | Nihonshi
フランス史 | Furansushi
日本茶 | Nihoncha
清朝 | Shinchō
明治期 | Meijiki

6.9.4 接頭辞付きの固有名

接頭辞と固有名を切り離して表記する。固有名詞の派生語は 6.5 を見よ。

大日本帝国 | Dai Nippon Teikoku (推奨される異形: Dai Nihon Teikoku)
新東宝株式会社 | Shin Tōhō Kabushiki Kaisha
全日本観光連盟 | Zen Nihon Kankō Renmei
故黒澤明 | ko Kurosawa Akira
新ルネッサンス | shin Runessansu
新古今和歌集 | Shin Kokin wakashū

6.9.5 特殊な接尾辞

“的、型、式、流、産、製、派、系、本、版、戦、側” のような、固有名の末尾に付ける

ことができる単一文字をハイフンで繋ぐ.

日本的 | Nihon-teki
香港型 | Honkon-gata
田中千代式 | Tanaka Chiyo-shiki
フランス側 | Furansu-gawa

6.10 地名

6.10.1 一般的な事例

管轄区域名または街路名(町名)の一部として使用される一般的な地理的用語をハイフンで繋ぐ.

東京都 | Tōkyō-to
千代田区 | Chiyoda-ku
有楽町 | Yūraku-chō
山口県 | Yamaguchi-ken
横浜市 | Yokohama-shi
小川町 | Ogawa-machi
小笠原村 | Ogasawara-mura
二条通り | Nijō-dōri
北条郷 | Hōjō-gō
京畿道 | Kyōngi-dō (現代の資源に対して; 一部朝鮮語の読みに基づく) または Keiki-dō (植民地時代の資源に対して; 日本語の読みに基づく)
ただし、北海道は常に (Hokkaidō) と1語でローマ字表記する。これは長年の慣行に基づく特異な例外である。

6.10.2 複合一般地理用語に対する例外

複合一般地理用語を分けて表記する.

小笠原村長 | Ogasawara sonchō
小川町史 | Ogawa chōshi
千代田区立 | Chiyoda Kuritsu
横浜市政 | Yokohama shisei
東京都民 | Tōkyō tomin
東京都議会 | Tōkyō Togikai
山口県報 | Yamaguchi kenpō
ソウル特別市 | Souru Tokubetsushi

6.10.3 “国 | koku” の例外

“koku” は国家の名称の部分として表記する。

日本国 | Nihonkoku

満洲国 | Manshūkoku

韓国 | Kankoku

6.10.4 “no” に地名が続く場合の例外

都道府県、土地などの総称の前に “の | no” を付ける場合は分けて表記する。

武蔵国 (武蔵の国) | Musashi no Kuni

新田荘 | Nitta no Shō

磐余邑 | Iware no Mura

6.10.5 修飾語および複合語の例外

6.10.5.1 管轄区域名の一部となる修飾語

管轄区域名の一部となっている修飾語は、名称とともに 1 つの単語として表記する。

東伊豆町 | Higashiizu-chō

上北山村 | Kamikitayama-mura

内モンゴル | Uchimongoru

北朝鮮 | Kitachōsen

6.10.5.2 地名を含む修飾語

地名の修飾語は地名とは分けて表記する。

東南アジア | Tōnan Ajia

新横浜 | Shin Yokohama (鉄道の駅)

北アメリカ | Kita Amerika

ただし: 北米 | Hokubei (6.10.8 を見よ)

6.10.5.3 複合名称

合併した地名、または、より大きな地名を含む複合名称は、単一の語として表記する。

宇治山田市 | Ujiyamada-shi

会津若松市 | Aizuwakamatsu-shi

6.10.6 駅および港湾

地名に続く駅や港湾の総称はハイフンで連結する。

東京駅 | Tōkyō-eki
横浜港 | Yokohama-kō
品川宿 | Shinagawa-juku
新横浜駅 | Shin Yokohama-eki

一般用語が音読みの複合語を形成している場合はそれらを分けて表記する。

東京駅長 | Tōkyō ekichō
横浜港湾 | Yokohama kōwan

6.10.7 地理的特性

地理的特性の一般用語を名称の一部として表記する。

隅田川 | Sumidagawa
浅間山 | Asamayama
琵琶湖 | Biwako
信濃路 | Shinanoji
サイパン島 | Saipantō
十勝沖 | Tokachioki

一般用語が音読みの複合語を形成している場合はそれらを分けて表記する：

琵琶湖畔 | Biwa kohan
浅間山麓 | Asama sanroku

6.10.8 短縮形

一般的に、短縮された固有名から構成する、または短縮された固有名を含む単語は 1 つの単語として表記する。

6.10.8.1 単一語としての固有名詞

固有名詞は単語として記述する。

濃尾平野 | Nōbi Heiya
加越能 | Kaetsunō
京浜工業地帯 | Keihin kōgyō chitai
名神高速道路 | Meishin kōsoku dōro

信越線 | Shin'etsusen
欧米人 | Ōbeijin
留欧学生 | ryūō gakusei
英詩文 | Eishibun
対日貿易 | tainichi bōeki
薩英戦争 | Satsuei Sensō
加州 | Kashū

6.10.8.2 ハイフンで連結する国または言語

ただし、国名や言語名の略称からなる複合語は、その複合語が通常短縮される場合を除き、ハイフンで連結する:

日露外交十年史 | Nichi-Ro gaikō jūnenshi
日英独医語小辞典 | Nichi-Ei-Doku igo shōjiten
鮮満叢書 | Sen-Man sōsho
和漢書 | Wa-Kansho
日華大辞典 | Nikka daijiten
日中関係 | Nitchū kankei
日蒙関係 | Nichi-Mō kankei | ("Outer Mongolia"という国を指す)
ただし: 満蒙開拓 | Manmō kaitaku | (中華人民共和国の自治区である "Inner Mongolia" を指す。短縮された複合固有名を単一の単語として記述する。)

7 数字

以下の説明は、ローマ字表記のテキスト領域に数字を書き込む方法を示している。原文の領域に数字を書き写す、あるいは記録する方法については、適用する目録規則に従う。一般にローマ字表記をする場合、東アジアの数字はわかりやすくするためにアラビア数字に変換される。しかし、これには多くの例外がある。注目すべき例外は、7.2.1 と 7.3 に、また 7.4 に「手引き」として記載されている。疑問がある場合は、個々の判断で必要な異形を提供する。

7.1 典型的なケース

7.1.1 アラビア数字

アラビア数字または数値の表記は以下の通り。序数の接頭辞 "第 | dai" を別に書き、共通の実体や助数詞を修飾するために結合した数字をハイフンで繋ぐ:

1日3回 | 1-nichi 3-kai
6台の車 | 6-dai no kuruma
4次元 | 4-jigen
第1次予選 | dai 1-ji yosen
3・11 を超えて | 3.11 o koete (異形: San'ichiichi o koete)

7.1.2 アラビア数字に変換する東アジアの数字 (漢数字 | kansūji)
一般的に, 東アジアの数字はアラビア数字に変換する。

第六十周年 | dai 60-shūnen
昭和五八年度 | Shōwa 58-nendo
第二百十回 | dai 210-kai
平成七年 | Heisei 7-nen
二十世紀 | 20-seiki
第三卷 中世 | Dai 3-kan Chūsei
第二編 | dai 2-hen

7.2 固有名

7.2.1 アラビア数字に変換しない場合
場合によっては, 東アジアの数字をアラビア数字に変換せず, 代わりに綴った形で表記する。

三郎 | Saburō
五十嵐 | Igarashi
四万十川 | Shimantogawa
第一勧業銀行 (“第1 勧業銀行” という表記はない) | Daiichi Kangyō Ginkō
九十九里浜 | Kujūkurihama
二十四の瞳 (“24 の瞳” という表記はない) | Nijūshi no hitomi
千夜一夜物語 (“1000 夜 1 夜物語” という表記はない) | Sen'ya ichiya monogatari
十二夜 (“12 夜” という表記はない) | Jūniya
百人一首 (“100 人 1 首” という表記はない) | Hyakunin isshu
八日目の蟬 (“8 日目の蟬” という表記はない) | Yōkame no semi
八月の六日間 (“8 月の 6 日間” という表記はない) | Hachigatsu no muikakan

疑わしい場合は, 異形を作成する:

二・二六事件 | Niniroku Jiken (推奨される異形: 2.26 Jiken)

第二次世界大戦 | Dainiji Sekai Taisen (推奨される異形: Dai 2-ji Saki Taisen)

7.2.2 アラビア数字に変換する場合

元の文字の数字が容易に変換可能で、その過程で実質的な意味が失われない場合はアラビア数字に変換する。これは特に会社組織の部門やセクション、軍隊の支部などに使われる序数について当てはまる。

八月度報告書 (“8 月度報告書” もあり得る) | 8-gatsudo hokokusho

陸軍第百十一師団 | Rikugun Dai 111 Shidan

第六次開拓團 | Dai 6-ji Kaitakudan

法務省民事局第三課 | Hōmushō Minjikyoku Dai 3-ka

7.3 普通名詞

普通名詞の一部として使用される東アジアの数字は、慣例的な読み方を用いて表記する。

八百屋 | yaoya

五月人形 | gogatsu ningyō

百科事典 | hyakka jiten

五人組 | goningumi

7.4 東アジアの数字の綴り形

東アジアの数字を綴る必要がある場合は、以下の形式を使用する。

7.4.1 優先的な読み

基本的な東アジアの数字には、以下の読み方を優先する。ただし、大きな数字 (九百九十九 | kyūhyaku-kyūjūkyū), 固有名詞の読み方 (九州 | Kyūshū), その他の慣習的な読み方 (七転八起 | shichiten hakki または nanakorobi yaoki) については、文脈を考慮するか、標準的な参考文献を参照するなど、最善の判断を行う。いくつかの顕著な例外については、次のセクションで取り上げる。

一 | ichi

二 | ni

三 | san

四 | shi
五 | go
六 | roku
七 | shichi
八 | hachi
九 | ku
十 | jū
百 | hyaku
千 | sen
万 | man
億 | oku
兆 | chō

7.4.2 計数を含む慣習的読み

"人", "つ" などを含む形は、日本語の通常の読み方で綴る。

一人 [または] ひとり | hitori
二人 [または] ふたり | futari
一つ [または] ひとつ | hitotsu
二つ [または] ふたつ | futatsu
三つ [または] みっつ | mittsu
四つ [または] よっつ | yottsu
五つ [または] いつつ | itsutsu
六つ [または] むっつ | muttsu
七つ [または] ななつ | nanatsu
八つ [または] やっつ | yattsu
九つ [または] ここのつ | kokonotsu
十 [または] とお | tō
一日 | tsuitachi
二日 | futsuka
三日 | mikka
四日 | yokka
五日 | itsuka
六日 | muika
七日 | nanoka
八日 | yōka
十日 | tōka
二十歳 | hatachi

7.4.3 縮約*

場合によっては、数字とともに使われる縮約形を綴る必要がある。このような場合は、以下のように子音を二重にして表記する。

一夫一妻 | ippu issai
八方美人 | happō bijin
十進法 | jissinhō
十戒 | Jikkai
兵法三十六計 | Heihō sanjūrokkei
日本百景 | Nihon hyakkei

*縮約は次の数字を伴う場合に発生する: "力行 (ka, ki, ku, ke, ko)", "サ行 (sa, shi, su, se, so)", "タ行 (ta, chi, tsu, te, to)" および "パ行 (pa, pi, pu, pe, po)", の前にある "一", "八", "十", または "力行 (ka, ki, ku, ke, ko)" および "パ行 (pa, pi, pu, pe, po)" の前にある "六" および "百".

7.4.4 大きな値の東アジア数字

数字は1つの単語として書く。ただし、100を超える数字は、百、千、万などの位をハイフンで区切る。

百二十五年史編纂委員会 | 125-nenshi Hensan Iinkai (推奨される異形:
Hyaku-nijūgonenshi Hensan Iinkai)

7.4.5 接頭辞および計数

序数の接頭辞 "第 | dai" と計数は、それが先行または後続する番号の一部として表記する。ただし、それらが修飾する単語とは分けて表記する。

第三勢力 | daisan seiryoku
第二次大戦 | Dainiji Taisen

7.5 東アジアの句読点付き数字

7.5.1 ピリオドによる置き換え

必要に応じて、数字間の中点をピリオドに置き換え、その後スペースを入れない。ただし、数字がローマ字表記で単語として綴られた特定の出来事を指す場合は、中点を無視する (スペースやその他の文字を挿入しない)。

20・5世紀の音楽 | 20.5-seiki no ongaku

8・15前後：戦争と私たち | 8.15 zengo : sensō to watakushitachi

ただし：二・二六事件 | Niniroku Jiken

五・一五事件 | Goichigo Jiken

7.5.2 ハイフンによる置き換え

範囲を表すために使用される場合は、中点または日本語のティルド (～) をハイフンで置き換える。

3・4次元 | 3-4-jigen

大正十・十一年報告 | Taishō 10-11-nen hōkoku

昭和40年～昭和60年 | Shōwa 40-nen-Shōwa 60-nen

ローマ字/仮名対照表

A. 標準表。“*他の方式”は参考目的でのみ表示している。ラテン文字記入では常にALA-LCローマ字変換表を用いる。

ALA-LC ローマ字変換表 (標準表)										*他の方式
あ	a	い	i	う	u	え	e	お	o	
ア		イ		ウ		エ		オ		
か	ka	き	ki	く	ku	け	ke	こ	ko	
カ		キ		ク		ケ		コ		
さ	sa	し	shi ¹	す	su	せ	se	そ	so	
サ		シ		ス		セ		ソ		
た	ta	ち	chi ²	つ	tsu ²	て	te	と	to	
タ		チ		ツ		テ		ト		
な	na	に	ni	ぬ	nu	ね	ne	の	no	
ナ		ニ		ヌ		ネ		ノ		
は	ha	ひ	hi	ふ	fu ³	へ	he	ほ	ho	
ハ		ヒ		フ		ヘ		ホ		
ま	ma	み	mi	む	mu	め	me	も	mo	
マ		ミ		ム		メ		モ		
や	ya			ゆ	yu			よ	yo	
ヤ				ユ				ヨ		
ら	ra	り	ri	る	ru	れ	re	ろ	ro	
ラ		リ		ル		レ		ロ		

ALA-LC ローマ字変換表 (標準表)										*他の方式
わ	wa	ゐ	i			ゑ	e	を	o ⁴	4 用法に関わらず常に o
ワ		ヰ				ヱ		ヲ		
ん	n ⁵									5 常に n (ヘボン式では m にしない)
ン										
が	ga	ぎ	gi	ぐ	gu	げ	ge	ご	go	
ガ		ギ		グ		ゲ		ゴ		
ざ	za	じ	ji ⁶	ず	zu	ぜ	ze	ぞ	zo	6 zi (訓令式); di (日本式)
ザ		ジ		ズ		ゼ		ゾ		
だ	da	ぢ	ji ⁷	づ	zu	で	de	ど	do	7 zi, zu (訓令式); di, du (日本式)
ダ		ヂ		ヅ		デ		ド		
ば	ba	び	bi	ぶ	bu	べ	be	ぼ	bo	
バ		ビ		ブ		ベ		ボ		
ぱ	pa	ぴ	pi	ぷ	pu	ぺ	pe	ぽ	po	
パ		ピ		プ		ペ		ポ		
きゃ	kya	きい	kī	きゅ	kyu	きえ	kye	きよ	kyo	
キャ										
きあ		キイ		キユ	キエ	キヨ				
キア										
しゃ	sha ⁸			しゅ	shu ⁸	しえ	she	しよ	sho ⁸	8 sya, syu, syo (訓令式, 日本式)
シャ				シュ		シエ		シヨ		
ちゃ	cha ⁹			ちゅ	chu ⁹	ちえ	che	ちよ	cho ⁹	9 tya, tyu, tyo (訓令式, 日本式)
チャ				チュ		チエ		チヨ		
にゃ	nya	にい	nī	にゅ	nyu	にえ	nye	によ	nyo	
ニャ		ニイ		ニユ		ニエ		ニヨ		
ひゃ	hya	ひい	hī	ひゅ	hyu	ひえ	hye	ひよ	hyo	
ヒャ		ヒイ		ヒユ		ヒエ		ひょ		
	ひょ		ひょ							
ヒョ	ヒョ									
みゃ	mya	みい	mī	みゅ	myu	みえ	mye	みよ	myo	
ミャ		ミイ		ミュ		ミエ		ミヨ		
りゃ	rya	りい	rī	りゅ	ryu	りえ	rye	りよ	ryo	
リャ		リイ		リュ		リエ		リヨ		
ぎゃ	gya	ぎい	gī	ぎゅ	gyu	ぎえ	gye	ぎよ	gyo	
ギャ		ギイ		ギユ		ギエ		ギヨ		

ALA-LC ローマ字変換表 (標準表)										*他の方式
じゃ	ja ¹⁰			じゅ	ju ¹⁰	じえ	je	じょ	jo ¹⁰	¹⁰ zya, zyu, zyo (訓令式, 日本式)
ジャ				ジュ		ジエ		ジョ		
ぢゃ	ja ¹¹			ぢゅ	ju ¹¹	ぢえ	je	ぢょ	jo ¹¹	¹¹ zya, zyu, zyo (訓令式) dya, dyu, dyo (日本式)
チャ				チュ		チエ		チョ		
びゃ	bya	びい	bī	びゅ	byu	びえ	bye	びょ	byo	
ビャ		ビィ		ビュ		ビエ		ビョ		
ぴゃ	pya	ぴい	pī	ぴゅ	pyu	ぴえ	pye	ぴょ	pyo	
ピャ		ピィ		ピュ		ピエ		ピョ		

注: i) "は" と "へ" が文法助詞 (後置詞) として使用される場合, 読みの変化を考慮するために, それぞれ "wa" と "e" を使用する.

注: ii) 二重子音 (促音) は, 対応する子音を二重にして表記する. (例: 圧迫 | appaku, 学会 | gakkai, 突進 | tosshin)

二重子音が "ch-" で発生する場合は "c" を二重にする代わりに "t" を加える. (例: 密着 | mitchaku, 熱中 | netchū, 出張 | shutchō)

B. 非伝統的な日本語 (外来語等)

ALA-LC ローマ字変換表 (外来語等)									
						いえ	ye		
						イエ			
うあ	wa	うい	wi			うえ	we	うお	wo
ウア		ウィ		ウエ	ウオ				
くあ	kwa	くい	kwi			くえ	kwe	くお	kwo
クア		クィ		クエ	クオ				
		すい	si			すえ	swe		
		スイ		スエ					
つあ	tsa	つい	tsi			つえ	tse	つお	tso
ツア		ツイ		ツエ	ツオ				
		てい	ti	とう	tu				
		ティ		トウ					
				てゅ	tyu				

ALA-LC ローマ字変換表 (外来語等)									
				テユ					
ふぁ	fa	ふい	fi	ふゆ	fyu	ふえ	fe	ふお	fo
ファ		フィ		フユ		フェ		フォ	
ヴァ	va	ヴィ	vi	ヴ	vu	ヴェ	ve	ヴォ	vo
				ヴユ	vyu				
		でい	di	どう	du				
		ディ		ドウ					
				でゆ	dyu				
				デュ					

注:

iii) この表に大文字-小文字の並びがない場合は、表 A と表 B を使って最初からできるだけ多くの文字をローマ字表記し、残りは小文字を追加した通常の文字であるかのよう
に表記する。(例: アイ | ai, スエ | sue, ヴィア | via)

参考文献

全般

Documentation Romanization of Japanese (kana script) = Documentation Romanisation du japonais (écriture en kana). (1989). Geneva: ISO.

Oxford English Dictionary. OED Third Edition, December 2008.

Society of Writers, Editors, and Translators (Japan). (1998). Japan style sheet: The SWET guide for writers, editors, and translators. Tokyo, Japan: Society of Writers, Editors and Translators.

Wakachigaki kijun

分かち書き基準 (2008 年 4 月以降)

http://www.ndl.go.jp/jp/data/catstandards/yomi/word_division_Apr2008.html

Web chamame [Web 茶まめ]

<http://chamame.ninjal.ac.jp/>

Yomi no hyōki oyobi wakachigaki kisoku [ヨミの表記及び分かち書き規則]

http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/KIJUN/m4_11_3.html

大文字使用法

RDA: Resource Description and Access: Appendix: A: Capitalization.
http://access.rdatoolkit.org/rdaappa_rdaa-10001.html

U.S. Government Printing Office Style Manual.
<https://www.govinfo.gov/content/pkg/GPO-STYLEMANUAL-2016/pdf/GPO-STYLEMANUAL-2016.pdf>

数字

Kazoekata no jiten [数え方の辞典]

<http://japanknowledge.com/lib/search/basic/?cids=20040>

ヘボン式ローマ字表記

American National Standard Z39.11 – 1972 "System for the romanization of Japanese" (1994 年削除)

Kenkyusha's New Japanese-English Dictionary. 1974. 4th edition (page xiii)

[原典]

Japanese Romanization Table

(<https://www.loc.gov/catdir/cpsa/romanization/japanese.pdf>)

ALA-LC 日本語ローマ字変換表 日本語版
ALA-LC Japanese Romanization Table

翻訳者 鳥海 恵 司
発行者 田 島 克 実
発行所 株式会社 トッカータ
e-mail: toccatamarc-info@toccatamarc.com
tel: 03-3363-1688 fax: 03-3363-1690
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-37-1
非売品 (TMCats 作業用)